

科目コード	3G216		区 分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	公共経営論		担当者名	山本 満理子			○		
			実務経験との関連	県議会議員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	2単位

<授業の概要>

現代においては、国・地方公共団体だけでなく、企業や民間組織、そして私たち市民一人ひとりも公共経営の担い手です。本科目では、公共経営のエッセンスを学ぶとともに、社会に出た後それぞれの立場から「公共を運営する」プレーヤーとしての視野を身につけることを目的とします。

<授業の到達目標>

公共経営のしくみを理解し、学んだ知識を活用し、公共経営のプレーヤーとしての視野を身につける。

<授業の方法>

基本的には教科書の内容をもとに進めますが、将来、公共経営のプレーヤーとして活躍できるよう、公共経営を実際に担う様々なプレーヤーから直接に話を聞く機会や先行事例研究などのPBLなども設ける予定です。※教科書を指定しますが、他の基本書を持っている学生は相談してください。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（出席等）30%、課題レポート30%、プレゼンや質疑、グループワークにおける貢献度40%により成績評価を行う。

<教科書>

杉永佳甫編（2015. 4. 1）

『公共経営学入門』

大阪大学出版会

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	公共経営学とは	ガイダンス、公共とは、公益に資する行動とは
2	政府のしくみと役割	政府とは何か、中央政府／地方政府とは
3	市民社会と地方自治体	市民社会、協働
4	日本の社会問題と経済	経済格差、グローバリゼーション、少子高齢化
5	新しい公共経営	新公共経営論、NPO法人
6	公共経営の戦略マネジメントモデル	公共経営戦略マネジメント、SWOT分析
7	新しい公共の担い手-NPOとソーシャルビジネス	ソーシャルビジネスとは、ソーシャルビジネスの成長支援
8	CSR（企業の社会的責任）と持続可能性	CSRとは、世界と日本のCSR
9	公共経営とソーシャル・キャピタル-人と地域社会をつなぐ絆	ソーシャル・キャピタルとは、ソーシャル・キャピタルと公共経営
10	グローバル化と新しい公共	グローバル化とは、地球環境
11	文化による地域づくり	文化と地域、文化振興
12	スポーツ振興と地域づくり	スポーツのもつ公共性、生涯スポーツ
13	高齢社会と社会保障	日本の高齢化、高齢者福祉
14	環境問題と公共経営-持続可能な発展に向けた環境ガバナンス	環境問題、持続可能な発展
15	被災地支援の取り組み-阪神・淡路大震災と東日本大震災から学ぶ、授業のまとめ	災害と市民活動、授業のまとめ

科目コード	28102		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	経済学概論		担当者名	田口 雅弘／歌代 哲也			○		
			実務経験との関連	担当者の中で証券会社社員、商品取引所研究員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

経済学の基礎を学ぶ。具体的には、経済学の体系、経済学的ものの見方、経済学を学ぶ上での基礎知識、キーワードとなる経済用語、経済社会の構造などを学ぶ。

<授業の到達目標>

マクロ経済学、ミクロ経済学、その他の経済系専門科目を学ぶための基礎知識を身につける。

<授業の方法>

講義形式で行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

時々実施する確認テスト（60%）と最後のまとめテスト（40%）で評価する。

<教科書>

特になし

<参考書>

飯田幸裕・岩田幸訓（2022）

入門経済学 [第四版]

創成社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	経済学とは何か	経済学とはどのような学問かについて解説をおこなう。
2	グラフの見方・書き方	マクロ経済学、ミクロ経済学で使う基本的なグラフの見方・書き方を練習する。
3	国内総生産（GDP）	マクロ経済学の基礎となる国内総生産（GDP）の概念、その規模や世界各国GDPの比較をおこなう。
4	生産・所得・消費の決定	生産・所得・消費がどのようにして決まるかを考える。
5	貨幣	貨幣の成り立ち、貨幣の役割、さらには新しい貨幣（デジタル通貨、仮想通貨）について考える。
6	マクロ経済政策	経済をどのようにコントロールするか、財政政策、金融政策を中心に考える。
7	インフレ、デフレ、失業	インフレ、デフレの要因とその経済への影響、失業との関係などを考える。
8	ミクロ経済学の基礎	ミクロ経済学とは何かを解説する。
9	需要と供給	需要と供給の関係をさまざまな例をもとに考える。
10	需要と効用	消費者剰余、効用について考える。
11	供給と利潤	供給の決定、費用、利潤最大化について考える。
12	競争と独占	自由競争状態、独占状態について解説し、その問題点を考える。
13	市場の失敗、ゲームの理論	市場はなぜ失敗するのかを理論的に考える。また、ゲームの理論の基礎を学ぶ。
14	まとめ	講義全体のまとめを行う。
15	小テスト	講義内容確認のテストを行う。

科目コード	28106	区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	簿記入門	担当者名	大池 淳一			○			
		実務経験との関連	実業系高等学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目及び後期開講の「簿記演習」と併せて日商簿記検定3級を履修者全員が受験し合格することを目指す科目である。そのため後期の「簿記演習」も履修すること。簿記を習得することは、就職活動に有利であり、また就職後の実社会で役立つので、経済経営学部の学生は全員履修することが望ましい。本科目では、簿記の入門編として、簿記の基本原則である取引の範囲・取引の8要素（費用・収益・資産・負債・資本）の認識、及び会計処理を学び、総合問題対策として問題集などを利用して、簿記の基本的な技術を習得するとともに、経済経営学部生全員で1つの目標に向かって頑張り、非認知能力の構成要素である「自分を高める力」「他者と協働する力」の育成を目指す。なお商業高校等で既に簿記を学習済みであっても是非とも履修してもらい集団の中でリーダーシップを発揮してほしい。

<授業の到達目標>

① 簿記の意義と役割を知り、複式簿記の基本原則を理解する。② 基礎的な取引の仕訳ができるようになる。③ 取引の仕訳から各帳簿への転記、試算表作成、決算までの簿記一巡の流れを理解する。④ 日商簿記検定3級に合格するための基礎的な知識・技術を身につける。

<授業の方法>

① 授業の方法は、主に解説の後、問題演習を中心とする。② 電卓演習・集計作業などの計算を行うので、各自電卓（関数電卓、スマートフォン不可）を持参すること。③ 本科目では、問題演習の性質をもつため、個人学修によるところが大きい。⑤ 本科目では、後期開講の「簿記演習」と併せて履修し、日商簿記検定3級合格を目指している。本科目では記帳に関する技術を確実に身につけるため手書きを主体とする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 受講態度・学習意欲・授業への参加度 30%，② 小テスト 70%フィードバック：締切後、次の授業において解答を発表し解説する。

<教科書>

滝沢みなみ(2024/2/16)

2024年度版 スッキリわかる 日商簿記3級

TAC出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価方法、授業方針、簿記とは
2	仕訳①	商品売買①、数字の書き方
3	仕訳②	商品売買②
4	仕訳③	現金、普通預金、定期預金、当座預金
5	仕訳④	手形、貸付金・借入金
6	仕訳⑤	その他債権債務、その他費用、有形固定資産
7	総勘定元帳（略式）	勘定への記入
8	試算表の作成	試算表の問題演習
9	精算表	問題を使用した解き方の説明
10	決算整理仕訳①	問題を使用した解き方の説明
11	決算整理仕訳②	問題を使用した解き方の説明
12	財務諸表の作成①	日商簿記検定での解き方の説明
13	財務諸表の作成②	日商簿記検定での解き方の説明
14	問題演習	日商簿記検定での解き方の説明
15	まとめ	本科目のまとめとアンケート

科目コード	3G200		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	ミクロ経済学		担当者名	倉田 知秋			○		
			実務経験との関連	公務員（総務省統計審査官）としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、消費者と生産者を中心として、消費者が限られた予算内で財(商品)を購入する際にどのような基準で意思決定をするのか、生産者が限られた資源(土地、労働等)をどのように有効に活用し財(商品)を生産するのか、そして市場における需要と供給、価格と数量の決まり方等、ミクロ経済学の基本的な考え方について学ぶ。これらの意思決定はわたしたちの生活にも身近なものであり、ミクロ経済学の考え方が現実の経済問題にどのように応用可能かについて理解することを目的とする。

<授業の到達目標>

本科目では、市場を構成する家計や企業といった各経済主体の選択行動の基礎理論と、そこから導かれる市場メカニズムについて説明する。この講義では、ミクロ経済学において最低限必要な「基礎知識」、「経済学的な考え方」、「分析手法」を習得することが目標となる。

<授業の方法>

板書を中心とするが、内容によってはPPT等で視覚的に分かりやすい方法も活用する。授業の理解度を高めるため、適宜レポートの提出を課す。講義内容によってはその理解度を確認するため、PPTの活用などによる双方向での授業を予定。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・学習意欲30%、課題20%、最終課題50%で評価する。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ミクロ経済学の基礎	ミクロ経済学で学ぶことを概観する。
2	需要と供給	グラフの見方を解説する。
3	消費者の行動	効用、予算制約について解説する。
4	消費の決定	消費がどのようにして決定されるかについて解説する。
5	生産者の行動	利潤、費用について解説する。
6	生産の決定	どのようにして生産が決定されるかについて解説する。
7	市場均衡	需要曲線と供給曲線、価格の決定を解説する。
8	経済厚生	余剰分析から経済厚生について考える。
9	完全競争と資源配分	パレート最適について解説する。
10	市場の失敗	市場メカニズムがうまく働かないケースを考える。
11	不完全競争	独占、寡占を考える。
12	公共財	公共財の特徴を解説する。
13	ゲーム論	ゲーム論の概要を解説する。
14	情報の経済学	エイジェンシー理論等の情報の経済学について概観する。
15	ミクロ経済学の世界	これまでの内容を踏まえて現実社会と照らし合わせてまとめる。

科目コード	3G201		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	マクロ経済学		担当者名	歌代 哲也			○		
			実務経験との関連	証券会社社員、商品取引所研究員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、国内総生産、物価、利子率、失業率等の国(または地域)を単位とした経済指標・経済活動を中心に、日本及び世界経済におけるマクロ経済指標の現状を理解し、それぞれの指標がどのような意味を持ち、どのような関連性があるかについて学ぶ。マクロ経済学における政府の役割、財政・金融政策の役割・必要性を理解し、これらの政策の効果を実際の経済データ等を用いて学ぶ。日本及び世界経済が抱える経済問題について、マクロ経済学の考え方で思考できることを目的とする。

<授業の到達目標>

本科目では、マクロ経済学の基本的な考え方を学ぶとともに、実社会の様々な課題に対して経済学の視点からアプローチすることでマクロ経済全体の動きを理解しようとする、経済学的発想・思考の習得を目指す。具体的には、マクロ経済学の基礎理論を正しく理解することを第一の目標とし、マクロ経済政策、失業や物価問題、経済成長など、今日の日本社会が抱える経済現象に焦点を当て、マクロ経済学の視点から分析・考察して自分なりの見解を導き出すことを第二の目標とする。

<授業の方法>

本講義は講義形式で行う。講義レジュメや各種資料は電子データ(pdfデータ)で配布するため、それらの参照用に、学生自身の情報端末(パソコンやタブレット)の持ち込み・利用を必要とする。また、分からない用語や内容については各種検索webサイトを利用して、授業中でも適時情報検索してもらう。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度・学習意欲30%、課題20%、レポート50%で評価する。

<教科書>

飯田幸裕・岩田幸訓(2018)

入門経済学〔第四版〕

創成社

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	マクロ経済学を楽しむ方法
2	経済規模を測るGDP(1)	GDPとは何か、名目と実質、経済成長率
3	経済規模を測るGDP(2)	付加価値、三面等価の原則、GNI
4	供給サイドから見るGDP	潜在経済成長率、総要素生産性
5	需要サイドから見るGDP	寄与度、GDPの支出面
6	需要・供給と日本経済	新古典派とケインジアン考え方
7	生産・所得・需要の決定と消費関数	乗数効果、消費関数、45度線と所得水準
8	投資・政府支出の導入と国際経済への拡張	投資と政府支出、ISバランス
9	貨幣が持つ機能	貨幣とは、貨幣の機能
10	マネーサプライとハイパワードマネー	信用乗数、マネーストック
11	貨幣供給と貨幣需要	貨幣供給と物価、貨幣数量式、貨幣需要とは
12	マクロ経済政策	政策目標と政策手段、財政政策と金融政策
13	インフレーションと失業	インフレーションとは、失業率、フィリップス曲線
14	経済成長の理論	資本蓄積、労働人口、技術進歩、ハロッド=ドーマーの理論
15	総括	経済学と経営学

科目コード	65019	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	公務員と法	担当者名	宮園 司史			○			
		実務経験との関連	公務員（警察庁官僚）としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

良好な治安を確保し、国民の生命、身体及び財産を守るとは、国の基本的な責務であるが、現在、我が国の治安は、サイバー犯罪・サイバー攻撃、国際テロ、組織犯罪といった重大な脅威に直面している。本科目では、このような責務の遂行に当たっている公安系公務員の業務を詳しく紹介するとともに、警察幹部としての経験談を交えながら、我が国の安全・安心の現状や課題、警察等における各種取組等について、幅広く取り扱い、我が国のセキュリティに関する理解と認識を醸成する。

<授業の到達目標>

公安系公務員の業務や我が国のセキュリティに関する基本的な知識を身につけるとともに、「世界一安全な日本」を実現するための各種取組についての理解を深めることを目標とする。

<授業の方法>

「集中講義」方式により授業を実施する。具体的には、毎回、各テーマに沿った内容について、パワーポイント等を使用して分かりやすく説明した動画を教材として配信するとともに、それぞれの授業に関して出題する課題への回答・提出を求める。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加状況・態度 50%、授業内レポート50%により、総合的に評価する（特に、受講態度については厳正にチェックする）。なお、規定以上の欠席回数がある場合および代筆レポートの提出その他受講態度に問題がある場合には、一切、単位を認めないの、注意すること。¥n

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	警察の任務と活動（その1）	警察の任務及び活動について、その概要を説明する。
2	警察の任務と活動（その2）	警察の任務及び活動について、その概要を説明する。
3	消防の任務と活動（その1）	消防の任務及び活動について、その概要を説明する。
4	消防の任務と活動（その2）	消防の任務及び活動について、その概要を説明する。
5	自衛隊の任務と活動（その1）	自衛隊の任務及び活動について、その概要を説明する。
6	自衛隊の任務と活動（その2）	自衛隊の任務及び活動について、その概要を説明する。
7	海上保安庁の任務と活動（その1）	海上保安庁の任務及び活動について、その概要を説明する。
8	海上保安庁の任務と活動（その2）	海上保安庁の任務及び活動について、その概要を説明する。
9	国民生活の安全確保（その1）	女性・子供の安全確保に向けた各種の取組や、昨今大きな社会問題となっている特殊詐欺の現状とその対策等について説明する。
10	国民生活の安全確保（その2）	地域住民の安全確保に向けた各種の取組や、犯罪を抑止するために進められている諸対策等について説明する。
11	犯罪情勢と捜査活動（その1）	我が国における犯罪の発生状況や検挙状況等を通じて、昨今の犯罪情勢の特徴、傾向等について説明する。
12	犯罪情勢と捜査活動（その2）	昨今の犯罪情勢に的確に対処するための課題や捜査活動の取組の現状等について説明する。
13	サイバー空間の安全確保	サイバー犯罪やサイバーテロ、サイバーインテリジェンス等、サイバー空間における各種の脅威の現状について説明する。
14	薬物犯罪を巡る動向と対策	覚せい剤等の薬物犯罪を巡る昨今の動向とその根絶に向けた対策の現状等について説明する。
15	総括・安全安心の現状	全体の講義を総括するとともに、我が国の安全・安心を脅かしている各種の治安事象や将来の見通し等について説明する。

科目コード	35217	区 分	コア科目スポーツビジネス			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	スポーツ経営学入門	担当者名	平岡 師玄哉			○			
		実務経験との関連	スポーツクラブ・健康増進施設運営会社の社員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

人間世界の様々な部分に経営管理が存在することを理解し、スポーツの世界にも経営管理が存在することを理解する。さらに、その経営管理の立場から「豊かなスポーツ生活」の実現をするために、その理念と方法を学習することに重きを置く。特に、運動者の立場に立った経営管理の考え方を重視するとともに、現代スポーツ社会における諸問題を中心に、具体的な実践につながるような授業を展開していく。

<授業の到達目標>

地域等のスポーツ振興に必要となるスポーツ経営の基礎理論及び実践的方法論を学習する。特にスポーツ経営の諸問題を参考にしながら、経営学的な考え方をできるようにする。

<授業の方法>

講義とグループワークを織り交ぜながら行っていく。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 30%、 授業内容についての課題 40%、 レポートの課題 30%

<教科書>

畑攻・小野里真弓
基本・スポーツマネジメント
大修館書店

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要説明・評価方法の説明
2	スポーツマネジメント(経営)がめざすもの	スポーツとマネジメント(経営)
3	スポーツマネジメントの方法	スポーツマネジメントの基本的使命
4	マネジメント(経営)組織の理念	マネジメント(経営)と理念の関係性
5	組織における人間観	クールアプローチとウォームアプローチ
6	マネジメントとマーケティング論	マーケティングの基本的な仕組み
7	スポーツプロダクト	スポーツサービスとスポーツベネフィット
8	スポーツ事業と運動生活 I	運動の成立条件としてのスポーツ事業
9	スポーツ事業と運動生活 II	運動生活と各スポーツ事業の特色とマネジメント
10	スポーツリーダーシップとマーケティングの基本	競技スポーツ集団としての組織論と消費者の認知行動過程
11	スポーツ政策	スポーツ政策の基本スタンスとわが国の主なスポーツ政策
12	スポーツの普及・振興を目指して I	アスリート育成とマネジメント
13	スポーツの普及・振興を目指して II	ダンス指導とマネジメントとフィットネスクラブのマネジメント
14	スポーツの発展・スポーツ教育の充実を目指して	女性スポーツとマネジメント、スポーツ地域マネジメント
15	スポーツ経営学入門のまとめ	スポーツ経営学の基本的なまとめ

科目コード	37506	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	スポーツマーケティング論	担当者名	小堀 浩志			○			
		実務経験との関連	スポーツクラブ・健康増進施設運営会社の社員・役員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツマーケティングは近年、オリンピックをはじめ様々なスポーツに導入され、人とスポーツをより活発化させる機能として、大きな役割を果たしている。本講義では、消費者に求められているスポーツの本質的価値はどのようなことなのか、マーケティングとはどのようなことなのかを考え、その上でスポーツマーケティングの歴史と発展その特性を知り、またスポーツマーケティングの幅広い要素と機能を実例を通じて学ぶことで、その本質を理解することを目的とする。また講義の終盤では、国内のスポーツマーケティングの実例も紹介する。

<授業の到達目標>

スポーツマーケティングの特性を理解する。スポーツマーケティングの幅広い機能を理解する。プロスポーツを中心にスポーツマーケティングの最新事例、今後のスポーツマーケットの成長課題を考察する。

<授業の方法>

講義形式を基本とし、少人数でのグループワークを展開していく。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 30% 授業課題(毎回の小テスト) 30% レポート課題 40%

<教科書>

特になし

<参考書>

原田宗彦 藤本淳也 松岡宏高 編著者(2020年9月1日)

スポーツマーケティング改訂版

大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	講義概要、成績評価方法の説明
2	スポーツマーケティングとは何か?	スポーツとマーケティングの概念
3	スポーツマーケティングの歴史と発展	スポーツマーケティングの誕生とその発展
4	スポーツプロダクトの特性	するスポーツとみるスポーツ、サービスマーケティング
5	スポーツ消費者の特性	スポーツ消費者の定義と意思決定プロセス
6	スポーツマーケティングのプランニング	リサーチ、STP、マーケティングミックス
7	プロモーション	広告、PR、イベント戦略
8	スポーツ・スポンサーシップ	スポンサーシップの概念、発展と現状、効果
9	ブランディング	ブランド戦略、ブランドエクイティとは何か、ライセンスリング
10	CRM(カスタマー・リレーションシップ・マネジメント)	顧客との関係、データベースマーケティングの未来
11	価格戦略	スポーツと価格、需要と供給、価格設定
12	マーケティングリサーチ	リサーチの意味、方法、分析と活用方法
13	事例紹介①国内スポーツ	プロ野球、Jリーグ、Bリーグのマーケティング事例
14	事例紹介②国内スポーツ	プロチームマーケティング事例
15	講義のまとめ	講義全体を通じてのまとめ

科目コード	54005	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	資格検定対策V (ICTスキル系)	担当者名	倉田 知秋			○			
		実務経験との関連	公務員（総務省統計審査官）としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

現代の社会では様々な業種・職種において、効率的な業務運用、成果報告の手段としてのコンピュータ利用は今や必須のスキルである。本科目ではコンピュータリテラシーⅠおよびⅡで修得した知識を活かし、コンピュータ操作の習熟度を高めるとともに、Word、Excel等のアプリケーションを効果的に使いこなす技法を身につけることを目的に、Microsoft社が提供・実施するOfficeアプリケーションの資格検定試験MOS（Microsoft Office Specialist）の資格取得を目指す。

<授業の到達目標>

資格試験対策勉強を通じて、PC操作の習熟を目指すとともに、ビジネスアプリケーションの重要性と業務効率性との関係について学ぶ。また、MOS試験の概要を理解するとともに、試験に合格するための力を身につける。

<授業の方法>

MOS試験のうち、Word、Excelの3科目を受験対象科目として講義を行う。授業期間は前・後期の通期のため、概ね2週に1回程度の進度である。それぞれの試験の出題範囲の各テーマごとに解説をオンデマンドで配信し、問題演習で理解度をチェックする。また、教科書に付帯の模擬練習問題を各自で実施して理解度を高める。合格するための勉強方法についても適宜解説する

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

オンデマンド配信の視聴確認と問題演習の提出（40%）、模擬試験問題の達成状況（60%）で評価する。

<教科書>

富士通エフ・オー・エム

MOS Excel 365&2019 対策テキスト&問題集

FOM出版

富士通エフ・オー・エム

MOS Word 365&2019 対策テキスト&問題集

FOM出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	MOSの解説、試験概要
2	Word練習 (1)	Word文書管理
3	Word練習 (2)	文字、段落、セクション、書式設定
4	Word練習 (3)	表、リストの管理
5	Word練習 (4)	参考資料の作成管理
6	Word練習 (5)	グラフィック要素
7	Word練習 (6)	共同作業の管理
8	Word練習 (7)	Wordの出題範囲と模擬試験
9	Excel練習 (1)	ワークシート・ブックの管理
10	Excel練習 (2)	セルのデータ管理
11	Excel練習 (3)	テーブルのデータ管理
12	Excel練習 (4)	数式と関数
13	Excel練習 (5)	グラフ管理
14	Excel練習 (6)	Excelの出題範囲と模擬試験
15	理解度確認	Word・Excelの出題の確認と攻略ポイント

科目コード	54002	区分	キャリア形成科目	実務経験のある教員等による授業科目					
授業科目名	資格検定対策Ⅲ(簿記系)	担当者名	大池 淳一	○					
		実務経験との関連	実業系高等学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

日商簿記検定2級を履修者全員が受験し合格を目指す科目である。1年次に「簿記入門」「簿記演習」を履修し、日商簿記検定3級レベルの知識を身につけている学生が対象である。前期に同時開講の「財務会計」と「原価計算」を併せて履修すること。簿記検定を取得することは、就職活動に有利であり、また就職後の実社会で役立つため、2年次後期までに日商簿記検定2級に合格を目指す。

<授業の到達目標>

日商簿記検定2級に受講者全員が合格する。

<授業の方法>

①「簿記入門」「簿記演習」を履修している、または商業高校等で日商簿記検定2級レベルの内容を学習済みであり、日商簿記検定2級を受験し合格することを目指す者に限る。②「財務会計」「原価計算」及び「管理会計」を同時に履修もしくは履修済みであること。③授業の方法は、授業では主に問題演習を行う。④電卓演習・集計作業などの計算を行う場合もあるので、各自電卓(関数電卓、スマートフォン不可)を持参すること。⑤第1回に参加することは必須で、授業方針を納得の上履修すること(他の授業への参加・公欠などのやむを得ない事情が

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

① 受講態度・学習意欲・授業への参加度 30%, ② 小テスト 70%フィードバック: 締め切り後、すぐに解答を発表し、解説をする。

<教科書>

滝澤ななみ(2024/3/21)

2024年度版 スッキリわかる日商簿記2級 本試験予想問題集

TAC出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価方法、授業方針
2	第1問対策	仕訳問題
3	第2問対策	精算表、財務諸表、連結会計
4	第3問対策	精算表、財務諸表、連結会計
5	第4問対策	仕訳、勘定記入、部門別個別原価計算
6	第5問対策	総合原価計算、標準原価計算、直接原価計算
7	予想問題①	第1問～第3問
8	予想問題①	第4問・第5問
9	予想問題②	第1問～第3問
10	予想問題②	第4問・第5問
11	予想問題③	第1問～第3問
12	予想問題③	第4問・第5問
13	予想問題④	第1問～第3問
14	予想問題④	第4問・第5問
15	総合問題	2級全範囲

科目コード	54003		区分	コア			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	資格検定対策Ⅳ(ビジネス系)		担当者名	小川 正人			○		
			実務経験との関連	海外の高等学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

2024年度の資格検定対策Ⅳ(ビジネス系)は韓国に焦点を当てる。韓国のソウルにある光云大学(こううん大学 / クァンウン大学) / KwangWoon Universityでの現地文化研修を通して広く韓国の文化を体験し韓国社会を理解する。韓国語の学習も取り入れる予定である。韓国研修に参加できない場合は別の課題を用意する。詳細については授業において説明する。

<授業の到達目標>

韓国語を学び韓国文化を体験し、韓国大学生と交流することで日韓相互の国際理解を促進し、生活・文化の向上に寄与することを目的とする

<授業の方法>

現地研修の前後に事前学習、事後学習を組み入れる。応募条件は下記の通りである。・現代経営学科 2年生以上の者・学科で参加を認められた者・心身ともに健康である者(通院している学生は相談してください)・事前研修(および事後研修に必ず参加できる者)・積極的に団体行動の輪に入り、ルールを守り、目的意識を持って研修に参加できる者

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

事前学習20%、現地研修60%、研修報告20% 現地研修に参加しない学生は別の課題で対応する

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	プログラムの概説及び海外渡航時の準備や注意事項など
2	事前韓国文化研修(1)	韓国の文化・歴史・言語を学ぶ
3	事前韓国文化研修(2)	韓国の文化・歴史・言語を学ぶ
4	事前韓国文化研修(3)	韓国の文化・歴史・言語を学ぶ
5	事前韓国文化研修(4)	韓国の文化・歴史・言語を学ぶ
6	事前韓国文化研修(5)	韓国の文化・歴史・言語を学ぶ
7	韓国文化研修(1)	韓国語研修・国際交流・ソウル探訪
8	韓国文化研修(1)	韓国語研修・国際交流・ソウル探訪
9	研修報告(1)	研修参加者による報告
10	研修報告(2)	研修参加者による報告
11	韓国の歴史	韓国の歴史について学び考える
12	韓国の文化	韓国の文化について学び考える
13	韓国の政治・経済	韓国の政治・経済について学び考える
14	韓国の若者文化	韓国の若者文化について学び考える
15	日韓関係	過去の日韓関係について学び、将来の日韓関係について考える